

○ 委員長報告

1 2月定例会本会議で報告された経済企業委員長報告は、以下のとおりです。

平成27年12月定例会

経済企業委員長報告

報告いたします。

当委員会に付託されました議案の審査結果は、お手元に配付されております委員会審査報告書のとおりでありまして、いずれも原案のとおり可決決定されました。

以下、審査の過程において論議された主な事項について、その概要を申し上げます。

まず第1点は、営業本部の活動を通じた地域活性化策についてであります。

このことについて一部の委員から、県内のものづくり企業の国内販路開拓支援の状況及び今後の取組みはどうか。

また、営業本部の活動を、地域経済の活性化にどのようにつなげていくのかとただしたのであります。

これに対し理事者から、本県ものづくり企業の国内販路開拓支援については、「スゴ技」データベース掲載企業を中心に、大手企業へのトップセールスや、大規模展示会への出展、更には、個別マッチング機会の提供など、重層的な取組みを行っており、今年度の第2四半期までの成約額は約11億6千万円と、対前年同期比で140%の伸びとなっている。今後は、専門業界紙を活用した情報発信やPR動画の作成など、更なるブランド力の向上を図っていきたい。

また、これまでの営業活動の積み重ねにより、徐々に持続的で安定的な継続取引につながってきており、事業者の経営の安定化や事業規模拡大、ひいては、雇用の安定にも貢献してきていることから、引き続き、国内外への営業活動を通じた販路の拡大をはじめ、インバウンドを含めた観光振興による交流人口の拡大など、各般の施策を展開することにより、実需の創出を通じた地域活性化につなげていきたい旨の答弁がありました。

第2点は、県内企業の人材確保と就職支援についてであります。

このことについて一部の委員から、本県の労働力人口を増やしていくことが重要であるが、県内企業の人材確保と就職支援の取り組み状況はどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、人材不足で苦勞している県内の中小企業のために、首都圏等で活躍している有能な人材を招き入れ、県内中小企業の経営力アップに貢献することを目的として、プロフェッショナル人材戦略拠点を設置し、新

しい事業や販路の開拓など、「攻めの経営」を支援するとともに、後継者不足に直面している経営者に対する円滑な事業承継へのサポートを行うなど、「攻め」と「守り」の両面から中小企業の経営支援に取り組むこととしている。

また、人材の県外への流出を抑制するため、中高生向けにもものづくり企業の紹介冊子を作成・配布するとともに、ウェブによる企業の魅力情報の発信など、県内企業の人材確保と就職支援に積極的に取り組んでいる。

さらに、本県出身の県外学生等の県内での就職を促進するため、四国4県合同会社説明会を開催したほか、来年3月には、首都圏等県外学生の往路分の交通費を負担した新規学卒者向けの合同会社説明会を開催するなど、県外に出ている人材の県内回帰にも取り組むこととしている旨の答弁がありました。

第3点は、救急医療体制についてであります。

このことについて一部の委員から、県立中央病院に隣接する松山市救急ワークステーションの運用状況はどうか。

また、現在の中央病院屋上ヘリポートを利用したヘリコプターの運用状況はどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、10月1日に開設した松山市の救急ワークステーションは、派遣型から常駐型に体制を拡充したことから、365日・24時間、医師が同乗した救急出動が可能となった。

中央病院の医師が救急車に同乗して出動した事案は、10月末現在で8件あり、うち1件は夜間の出動となっている。

一方、現在の消防防災ヘリコプターのドクターヘリの運用では、松山空港を出発後、中央病院で医師が搭乗し、現場で初期治療を施した後、患者を搬送している。状況によっては、搬送中の機内で治療をする場合もある。

なお、中央病院の建替え前には、医師等が陸路で空港に移動してから出発していたため、現在は、13分程度の時間が短縮されている旨の答弁がありました。

このほか、

- ・ えひめいやしの南予博2016の準備状況
- ・ 仕事と子育ての両立に向けた企業の支援
- ・ 工業用水道事業の災害時協定
- ・ 院内保育所
- ・ 後発医薬品の利用状況

などについても、論議があったことを付言いたします。

以上で報告を終わります。